

地域との意見交換会（ワークショップ）結果（鳥羽小校区）

開催日	平成 23 年 8 月 26 日（金）19 時～21 時
開催場所	鳥羽小コミセン
参加市民	26 名
テーマ	<p>【議題 1】活動をより活性化するためどうするか（安全なまちづくり、子ども育成、健康・福祉、生活環境、自治会加入促進）</p> <p>【議題 2】そのためにすぐ取り組めることがあるか</p> <p>【議題 3】自分がどう関わられるか、関わりたいか</p> <p>■共通テーマ 「地域の人々の創意工夫によって、温かい心が通い合うふるさとづくりをめざして」</p> <p>■部会毎（グループ毎）のテーマ</p> <p>①安全なまちづくり：誰もが「地域が守る尊い命」を認識し、いつでもどこでも安全に暮らせるまちづくり</p> <p>②子ども育成：豊かな心と健やかな身体を持つ子どもたちが育つまちづくり</p> <p>③健康、福祉：誰もが心身とも健康で明日への元気を育み活力に満ちたまちづくり</p> <p>④生活環境：まち全体を一つの生活空間として共有し、まちぐるみで美しく快適なまちづくり</p> <p>⑤自治会加入促進：3 年以内に校区平均加入率 80%をめざす</p> <p>※ファシリテーターより：「部会同士が横の繋がりを持って、協働して何かできることはないだろうか」という事もあわせて考える。</p>

ーワークショップ中の皆さんの様子ですー



アイスブレイキングの様子



普段活動しているグループに分かれて意見を出し合いました





各グループから議論の内容が発表されました



◇各グループで考えた「部会毎（グループ毎）のテーマ」と「活動活性化策」

部会毎（グループ毎）のテーマ	活動活性化策
<ul style="list-style-type: none"> ● 安全なまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ★活動の活性化策 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 「あいさつ」を活性化させ、「顔見知り」を増やす ★「あいさつ」活性化のための課題 <ul style="list-style-type: none"> ◇ ①どの人に挨拶すれば良いかわからない(挨拶がかえってこない不安も) ◇ ②小学校高学年になると挨拶してくれない子どもが多い ★課題の解決方法 <ul style="list-style-type: none"> ◇ ①スクールガードで使用しているオレンジキャップを取り入れる（この人には挨拶して良いという目印になる）⇒挨拶を繰り返すことで顔見知りに（キャップなしでも挨拶ができるように） ◇ ②学校からの挨拶の指導
<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども育成 	<ul style="list-style-type: none"> ★活動の活性化策 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 「地域交流スポーツ大会」の開催 ★活性化の具体策 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 単独で開催するのではなく、小学校の運動会に組み込む ◇ 例えば、中学生も含めて地区対抗リレーなどを実施する ◇ 加えて、ふるさと祭りの中に地域の対抗意識が芽生える行事を実施する（コミュニティの復活を目指す） ★活性化策提案の背景 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 中学生になると地域とのつながりが少なくなる ◇ 地域とのつながりを意識できる取組みが必要

<p>● 健康、福祉</p>	<p>★活動の活性化策</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ ①様々な行事への参加者を増やす(特定の人しか参加していない) ◇ ②地域の中に花を増やす(心の健康対策) ◇ ③公園に木陰を増やす(高齢者の健康対策) <p>★活性化の具体策</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ ①父親の参加を増やし子どもの参加を増やす/お年寄りに子どもが関わるような行事を増やす(子どもは元気をくれる)/自治会加入を促進し、行事情報を発信する(現状の主な参加者は自治会会員) ◇ ②コープ前道路に花を植える/休耕田等に花を植える
<p>● 生活環境</p>	<p>★活動の活性化策</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 「不法投棄を許さない運動」の展開 <p>★活性化の具体策</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 網を張る ◇ 看板を立てる ◇ ロープを張る ◇ (長期的展望)子どものころから教育を行う <p>★その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 不法投棄やゴミ捨てのマナーが悪い人は自治会未加入者に多いのでこれに対応する必要あり
<p>● 自治会加入促進</p>	<p>★活動の活性化策</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 自治会加入のメリットをアピールする ◇ 未加入者にアンケートを実施し、その理由を探る ◇ 毎年同じ事業を行わず、全員の意見を出来るだけ反映した事業を実施する <p>★自治会加入のメリット(アピールポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 仲間や知り合いが増える ◇ ゴミ収集カレンダーが貰える、情報交換ができるなど情報が増える ◇ 行事等に参加することで自分のまちと思えるようになる ◇ 災害時の助け合い、近隣弱者へのサポートなど安心が得られる ◇ まちを良くしていくための一員になれるなどの喜びがある ◇ 各種行事に参加できる <p>★自治会に加入しない理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 会費が高い、ゴミは市が回収してくれるので不便を感じないなど、メリットを感じない ◇ 役員が回ってくる ◇ 仕事、介護等で忙しく時間がない ◇ 自治会が何をしているかわからない ◇ 子ども会に参加するために加入していても、子どもが中学生になると辞めてしまう ◇ 等

◇ファシリテーターによるまとめ



この自治会加入促進のテーマはまたの機会に部会をこえてワークショップを実施されると良いかもしれません。

自治会加入促進まで考えなくても、メリットのある自治会、というものをみんなで考えてみたら良いかなと思います。

当校区のふるさと祭りなどでは部会をこえて、それぞれの部会から人が出てきて実行委員会形式で、対等な立場で力を合わせている、と聞いています。

市役所は協働と言いながら、自分たちが出来ていないと私は思います。当校区を見本にして市役所内の協働を進めて欲しいと思います。

昔はネットワークを意識して作らなくても地域でそれぞれが協力し合っていました。今は人工的にネットワークを作っていないといけない時代になってしまいました。そのことを嘆いても仕方がなく、どんどんコミュニティが希薄化していく中で、人工的であっても何らかのネットワークをつくり、みんなで参加していけば良いと思います。昔の良かった点は、どんどん新しいネットワークに組み入れていけば良いと思います。

これからの新しいつながりを今日参加してくださった皆さんであれば作っていけると思います。

◇（仮称）協働のまちづくり推進条例検討委員会 会長のコメント

いま我々が検討している協働のまちづくり条例の中で仕組みを考えていかなければならない点が3点、本日のワークショップで挙げられていたと思います。

異なるテーマについてグループでお話しいただきましたが、ファシリテーターが最初に「部会同士が横の繋がりを持って、協働して何かできることはないだろうか」ということを考えてください、という話をしました。1点目として、それぞれのテーマが異なる中で、そのような中でも共通のものをどのように組み合わせていくのか、その仕組みを考える必要があるのではないかと思います。

2点目はコミュニティの強化の仕方です。自治会加入率向上について話し合ったグループがありましたが、どのようにコミュニティを強化していくのか、ということも検討していく必要があるのではないかと思います。

3点目は行政との役割分担について。ゴミの不法投棄についての話し合いの中で、「不法投棄が増えると行政費用が増えるよ」という意見がみられました。どのように不法投棄を減らしていくのか、このような時に町内会・自治会やボランティアなどがどのように関わっていくのか。また、それぞれの負担をどのように減らしていくのか。このような仕組みについても考える必要があるのではないかと思います。